



R
eport

特定非営利活動法人沖縄工芸・デザイン推進機構が手掛ける
「まなぶ」「つくる」「しめす」

GO
CAN
ACT

golden-opportunity
create for art and nature
authorize to citizen and thinking

VOL.1 / 2006.11.30

Report-1

沖縄県国頭村北国小学校の子供たちと国頭村宜名真区住民を対象とした

沖縄の工芸体験学習教室と公開市民講座

GO
CAN
ACT

golden- opportunity
create for art and nature
authorize to citizen and thinking

特定非営利活動法人沖縄工芸・デザイン推進機構が手掛ける 「まなぶ」「つくる」「しめす」

GO:golden- opportunity / CAN:create for art and nature / ACT:authorize to citizen and thinking

沖縄工芸・デザイン推進機構は、沖縄の普遍的な芸術文化を中心とした工芸・デザインの精神並びに技術を積極的に継承・発展させることを目的として設立されました。

沖縄工芸・デザイン推進機構は、沖縄の普遍的な芸術文化、工芸・デザインの精神並びに技術を積極的に継承・発展させることを目指して「まなぶ」、「つくる」及び「しめす」という3つの基本精神を理念とした活動を企画・立案並びに支援・推進します。

沖縄工芸・デザイン推進機構は、先ず「まなぶ」ことへの活動の一環として、新しい芸術表現を生み出す創造的な活動に携わる工芸・デザインとその専門家らによる交流の機会を広げる為のGolden- Opportunity (GO) を事業計画の一つと掲げます。

次に「つくる」ことへの活動の一環として、創造的な工芸・デザイン作品の制作を支援するCreate for Art and Nature (CAN) を事業計画の一つと掲げます。そして「しめす」ことへの活動の一環として、新しい芸術表現を生み出す創造的な活動に携わる工芸・デザインとその専門家らによる新しい見識や創造的な工芸・デザイン作品等を沖縄工芸・デザイン推進機構のオリジナルホームページにて公表することや個展、展覧会及び子供達や一般市民らを対象とした公開講座等の計画開催によって Authorize to Citizen and Thinking (ACT) を事業計画の一つと掲げます。

このように沖縄工芸・デザイン推進機構は「まなぶ」、「つくる」及び「しめす」の基本精神を貫き「GO」「CAN」「ACT」の3事業計画を推進します。具体的には、様々な表現形式からその創造活動を芸術文化、工芸・デザインとして受け継ぐことができる人々の可能性を広めるためのシステム構築を目指します。

- 工芸・デザインの知識向上のための国内外関連情報の収集活動を支援する。
- 工芸・デザインを通じた積極的な継承教育並びに国際交流活動を支援する。
- 将来工芸・デザインを目指す若者を対象としたワークショップ、インターンシップの開催を支援する。
- 工芸・デザインに関する情報提供活動や調査研究等の技術向上のための活動を支援する。
- 工芸・デザインの体験等医療関係者との協力による高齢者へのアートセラピー活動を支援する。

これら沖縄を拠点とした様々な活動支援を実施し、つくり手と利用者相互の永続的なコミュニティーを確立することによって、広く社会公益の増進に寄与することを目的とする。また、沖縄工芸・デザイン推進機構は、普遍的な工芸・デザインの理解を基盤として日本全国及びアジア・太平洋諸地域に開かれた国際的な市民芸術活動の拠点となることを目指します。



Report-1 沖縄の工芸体験学習教室と公開市民講座

全校生徒6名、沖縄本島北部国頭村立北国小学校

沖縄本島北部全校生徒6名の沖縄県国頭村立北国小学校。北国小学校は、北海道や東北の北部地域の小学校ではとの錯覚を致しますが、沖縄本島の北部国頭村(人口5,574人、総面積194.80km²)最北端の辺土岬近くにある全校生徒6名の小さな小学校です。北国小学校はネーミングの通り、沖縄県民にとっても北のはずれ、さい果ての地というイメージが強い地域の小学校です。

この小学校に通う6名の子供たちを中心に沖縄の伝統工芸である「紅型染色」や「紙漉き」そして「機織」の体験教室で何を感じてくれるのか、また子供たちと一緒に父兄や祖父母、おじやおばと共に「健康に暮らす」、「病気になるない為に」、「くすりの飲み方」及び「覚せい剤等ドラッグの恐ろしさ」といった健康長生きをテーマに「特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構」との共催による「公開市民講座」を2006年11月23日に開催しました。

沖縄本島とは云え、人や車の往来がまだまだ少ない澄み切った空や海の景色の中で育った子供たちとのふれあいは、私共の今後の活動にも大きな影響力を与えてくれるものと考えており、「特定非営利活動法人沖縄工芸・デザイン推進機構」のメンバーは、古いしきたりや固定観念にこだわらない沖縄の工芸伝承活動を目指す若者らによって設立されたNPO法人であり、今回の企画は私達にとってもNPO法人としての最初の事業計画でした。

沖縄の新しい工芸のスタイルを模索する若者達と小さな子供たちとのやり取りや子供たちと地域の大人たちと一緒に触れあい、考える機会を設ける事も当NPOの大きな役割と捉え活かしていきたいと思ひます。



自然溢れる学校周辺



北国小学校 崎浜校長先生



国頭村北国小学校



Report-1 沖縄の工芸体験学習教室と公開市民講座

国頭村宜名真区長をはじめ、地域住民のご協力

今回の「体験教室」並びに「公開市民講座」は、多くの方々によるご協力により開催されました。

北国小学校の諸先生方をはじめ、子供たちの父兄、PTA関係者、宜名真区長の新里さん、地域住民の方々と多くの方によって事前準備含めご協力・参加頂きました。

〔開催記録〕

日時： 2006年11月23日(木・祝)
13:30-16:00
「体験学習教室」
17:00-18:00
「公開市民講座」

会場： 沖縄県国頭村宜名真区公民館

内容： ■体験学習
「紅型染色・織物・紙漉き」
■公開市民講座
毎日の生活の上でのくすりの知識や病気にならない、病気と上手く付き合う方法「くすり与健康」「くすりの正しい飲み方」

主催： NPO沖縄工芸・デザイン推進機構、NPO医薬品適正使用推進機構
共催： NPOイーマジャパン
協力： 北国小学校、父兄、PTA関係者、宜名真区長、区民の皆さん



企画準備段階からご協力頂いた北国小/島先生



会場内設営-1



会場内設営-2



Report-1 沖縄の工芸体験学習教室と公開市民講座

沖縄の工芸「紅型」「紙漉き」「機織」

今回の「体験教室」は、当NPOの理事である金城、上江州、長池の3名がそれぞれ「紅型」「紙漉き」「機織」の体験を指導しました。子供たちだけでなく、父兄や先生、地域住民の皆さんにとっても興味を抱き、体験欲を促し、結果的には多くの方が積極的に参加いただくかたちになりました。

[沖縄工芸について]

紅型： 琉球王朝時代、東南アジアや中国、日本等から様々な技術・アイデアを取り入れ確立された、他には無い独自の染め物「紅型(びんがた)」。
沖縄の歴史とともに歩み、その光と美しい自然に育まれた染め物です。

紙漉き： 沖縄でも琉球王朝時代には和紙が漉かれていました。庶民の紙である「芭蕉紙」は芭蕉布の糸の原料にならない部分を利用して漉かれた紙で、非繊維が多く含んで茶色味がかっています。先人達の知恵と工夫が詰まった沖縄独特の紙です。

機織： 沖縄は織物の宝庫といわれています。かつて、着物は全て家族の女性が織っていました。家族を思い、美しい織物を生み出そうという女性たちの心が沖縄の織物を支えてきたといえるでしょう。



紅型体験の様子



紙漉き体験の様子



機織体験の様子



Report-1 沖縄の工芸体験学習教室と公開市民講座

子供たちの工芸体験後の感想

[北国小6年 小浜弘之くん]

沖縄の工芸体験をして、紙すき、織物、紅型染色の3つの工芸体験をしました。どれも難しかったけど、特に難しかったのは紙すきで水中から上げるのが重くて難しかったです。工芸体験をして、昔の人の知恵はすごいと思い、感動しました。これからも、沖縄の工芸・伝統・文化を大切にしていきたいと思いました。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

[北国小6年 宇良奈々美さん]

沖縄工芸体験をして、一番心に残っているのは、紅型です。色を工夫して塗る所が、とても楽しかったです。また、織物や紙すきもとても楽しくできました。機会があったら、ちがう沖縄の工芸にふれたいです。本当にありがとうございました。

[北国小6年 浦崎美典さん]

今まで漆喰シーサーづくりには挑戦しました。今回の工芸には、初めて挑戦しました。心に残った事は、紅型です。色を重ねたり、仕上げたりする工程が難しかったけど、可愛くできました。(やったー)織物と紙すきも初めてだったけど、講師の方が丁寧に教えてくれたので上手にできました。機会があったら、他の工芸にもふれてみたいです。本当に、ありがとうございました。

[北国小6年 梅原翔くん]

先日の工芸体験では、織物、紅型、紙すきに初めて挑戦しました。特に心に残ったのは紙すきです。和紙を作るのは、少しコツがいる事が分かり、大変だと思いました。僕はこれからも沖縄の伝統を学んでいきたいです。沖縄に生まれて良かったとも思いました。ありがとうございました。

[北国小5年 浦崎匠悟くん]

ぼくは、初めて織物・紅型・紙すきを体験しました。どれも楽しかったけど、一番心に残ったのは、織物です。そのわけは、織機を使うのは始めてだったからです。きれいなしおりができたのでうれしかったです。紅型かばんもさっそく使っています。これからも工芸体験に参加していきたいと思いました。

[北国小3年 宇良有斗くん]

沖縄の工芸体験をして、一番心に残った事は、織物です。手と足を使うので楽しかったです。また、挑戦したいです。



Report-1 沖縄の工芸体験学習教室と公開市民講座

公開市民講座

毎日の生活の上でのくすりの知識や病気にならない、病気と上手く付き合う方法

くすりと健康「くすりの正しい飲み方」

今回の「体験教室」と同時に開催された「公開市民講座」は子供たちと一緒に父兄や祖父母、おじやおばあと共に「健康に暮らす」、「病気にならない為に」、「くすりの飲み方」及び「覚せい剤等ドラッグの恐ろしさ」といった健康長生きをテーマに「特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構」の理事長である鍋島先生に講演して頂きました。

[特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構について] —————

万全の注意を払っていても、くすりの副作用により多くの健康被害が発生しています。当NPOはくすりを安全に上手に使うことにより、人々が21世紀を健康に幸せに暮らしていくための支援をしていきます。くすりは効果ばかりでなく、必ず副作用を併せ持っています。当NPOは子供たちから大人まで、くすりの正しい使い方などの教育、指導を行い、薬の効果を最大限に引き出し、副作用を出さないように、くすりの正しい使い方の知識を普及させます。

* 詳しくはホームページをご覧ください。(http://www.j-do.org)

[理事長プロフィール]

鍋島俊隆

名古屋大学大学院医学系研究科医療薬学講座・医学部附属病院薬剤部教授

1968(昭和43)年岐阜薬科大学卒、73年大阪大学、博士課程単位修得中退、名城大学薬学部助手。82年同講師、84年同助教授。90年名古屋大学教授、現在に至る。

[研究テーマ]

精神疾患動物モデルの作成と薬理作用の評価。薬物依存。

[著書]

岩波科学ライブラリー「脳と心に効く薬を創る」分担執筆「New薬理学(南江堂)」「臨床薬理学(医学書院)」「薬物治療学(南山堂)」など



医薬品適正使用推進機構 理事長 鍋島先生



講演の様子-1



講演の様子-2



理事
機織講師/長池朋子

理事長
紅型講師/金城史彦

副理事長
紙漉き講師/上江州睦

Report-1 沖縄の工芸体験学習教室と公開市民講座


これから...。



今回の「体験教室」「公開市民講座」を皮切りに、「NOO法人沖縄工芸・デザイン推進機構」は積極的に活動を行いたいと思います。色々なかたちで繋がる広がり可能性を確信し、より一層の充実を図り、多くの方々と、このNPOを通して交流が出来る事を望みます。

特定非営利活動法人
沖縄工芸・デザイン推進機構 理事長 金城史彦

[特定非営利活動法人沖縄工芸・デザイン推進機構について]

団体名称 :  NPO法人 沖縄工芸・デザイン推進機構
 代表者 : 金城史彦
 本部 : 沖縄県那覇市古島2-15-6 〒902-0061
 TEL/FAX : 098-886-2678
 東京事務局 : 東京都江東区東砂2-15-8-803 〒136-0074
 認証年月日 : 平成18年5月30日(府国生第473号)
 HP : <http://www.ocdo.jp>

■私共の活動と一緒に参加したい方々、並びにご賛同頂ける企業・団体のご担当者様へ
 担当: 沖縄/金城(上記電話番号)、東京及びその他地方/松原(090-3919-6889/matsubara@giraf.co.jp)

[その他関係先連絡について]

NPO法人 医薬品適正使用推進機構 東京事務局 TEL.03-5919-4739 ホームページ: <http://www.j-do.org>
 NPO法人 アイエイチエムエージャパン ホームページ: <http://www.ihma.or.jp>
 国頭村立北国小学校 ホームページ: <http://www.mco.ne.jp/~kitakuni/>